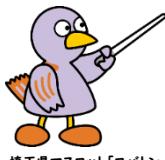


## よりよい授業づくりのために②



### 発問づくりのポイント②

埼玉県マスコット「コバトン」

発問によって児童生徒の問題意識や疑問などを生み出し、多様な感じ方や考え方を引き出します。

児童生徒の思考を予想し、それに沿った発問や、考える必然性、切実感のある発問、自由な思考を促す質問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けます。

### I 発問について

道徳科の発問は、一般的には次の3種類の発問が考えられます。

**中心発問**…授業のねらいに深く関わる中心的な発問

「価値観同士の対立」や「生き方が問われる場面」、「行為の選択が求められる状況」など、多様な考え方や感じ方を引き出せるような場面を問うなど

**基本発問**…中心発問を生かす前後の発問

中心発問の前に、分かっているけどできないといった人間の弱さなどを引き出すなど、中心発問の後に、ねらいとする価値について、見つめ直させてことで、自覚を図るなど

**補助発問**…中心発問や基本発問を補ったり、深めたりする発問

児童生徒の思考を予想し、価値観を更新していくよう問い合わせていくなど

**道徳的価値は、具体的な道徳的場面においてこそ実感され、深められるものです。**

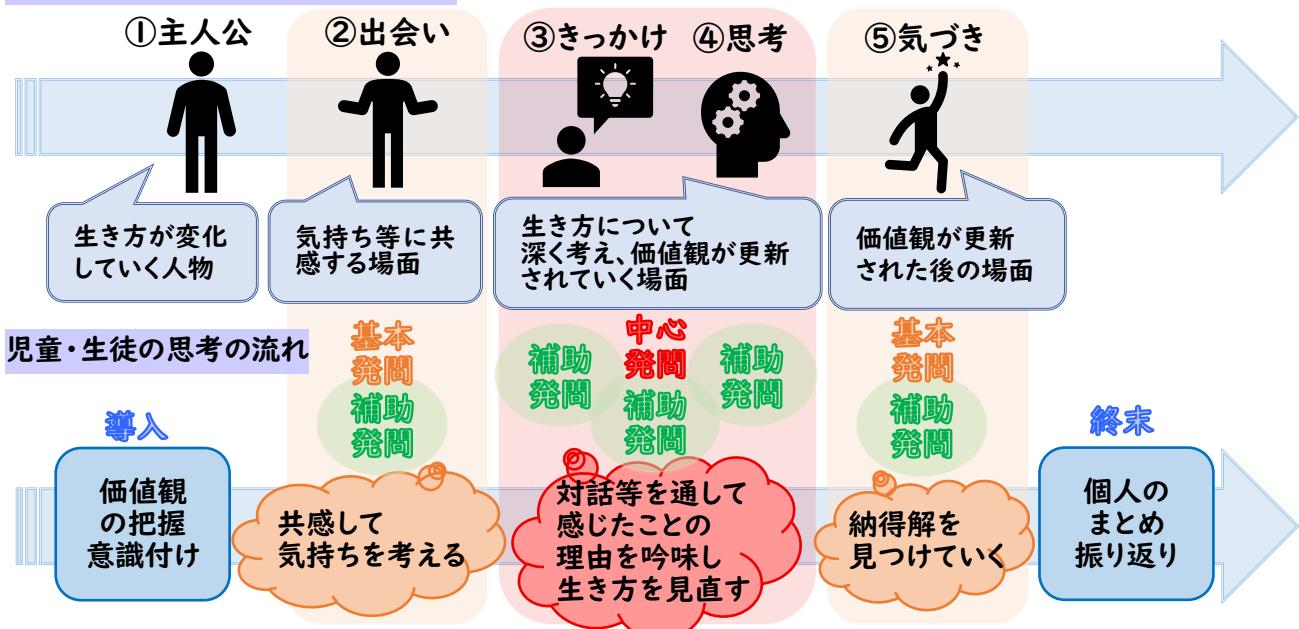
教材の中から、道徳的な問題が生じている場面や、生き方が問われる場面を見つけ出し、その場面を中心に児童生徒の考え方や想いを引き出す問い合わせを設定しましょう。



### 2 授業構想の例

教材に描かれている道徳的価値とその論点を明確に捉えることがポイントです。その際、教材の構造を図にすると分かりやすいです。

#### 登場人物の変容の流れ【イメージ例】



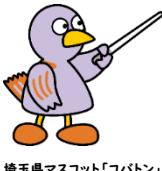


## 指導方法の工夫

指導方法の工夫は、道徳性を養う学習活動を決められた時間内でより効果的に行うための手段です。

指導方法の工夫が、目的ではないことに留意しましょう。

指導方法	ポイント
教材提示	<p>教師による読み聞かせて行うことが一般的です。 大切なことは、児童生徒が教材の内容を短時間で理解できるようにすることです。 読み聞かせ以外にも、「紙芝居」「ペーパーサート」「音声や音楽の効果の活用」「映像」などの方法もあります。</p>
話し合い	<p>「ペア」「小グループ」「学級全体」などの話し合いの形態があります。 話し合いを活性化させるための思考ツールも効果的です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>【思考ツール例】 心情メーター・座標軸・ベン図・付箋・ホワイトボード など</p></div> <p>いずれにしても教師が何のためにその方法を取り入れるのか意図をもつことが大切です。</p>
書く活動	<p>話し合い同様、何のために書くのか目的を明確にします。 書く活動を効果的に行うためには、児童生徒が何を書くのか明確な指示を出すことが必要です。 また、1単位時間には限りがあります。 考える時間、話し合う時間を確保すると書く活動を多くすることはできません。 書かせる回数と時間の吟味が必要です。</p>
役割演技等の表現活動	<p>児童生徒に問題場面を想定して演技をさせます。 児童生徒の演技の背景には、本人が自覚していない道徳的価値についての考えが隠れています。それを引き出す効果があります。 「役割演技」や「動作化」などの方法があります。</p>
板書	<p>児童生徒の思考を整理したり、深めたりする重要な手掛かりとなるものが板書です。 児童の学びの深まりにより効果がある方法を選択してください。</p>
説話	<p>終末に説話を行わなければならないということではありませんが、説話には次のような効果があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①児童生徒にねらいとする道徳的価値をより身近に感じさせる</li><li>②児童生徒にねらいとする道徳的価値を一層主体的に考えさせる</li></ul> <p>※教師の考えの押し付けにならないように注意しましょう。</p>
ICTの活用	<p>道徳科では、視野を広げて、多面的・多角的に考えることが大切です。 「①自分の考えをもつ ②他者の考えを知る ③他者と議論する ④全体で共有する」 ICT端末でこうした学習活動を効果的に行える場合に使用するとよいでしょう。</p>



## 学習指導案 作成の ポイント

埼玉県マスコット「コバトン」

道徳科の学習指導案は、教師の指導の意図や構想が表現されることが好ましく、教師自身の創意工夫を生かして作成していきます。

したがって形式に決まった基準はありませんが、一般的には次の内容が考えられます。

### 第〇学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日(〇)  
授業者 教諭 〇〇 〇〇

#### 1 主題名

ねらいと教材で構成し、授業の内容が概観できるように端的に表した言葉です。



#### 2 ねらい

別資料「よりよい授業づくりのために」を基に、構想したねらいを記述します。※詳細は次のページ

#### 3 主題設定の理由

##### (1) ねらいや指導内容について

→ 学習指導要領を踏まえて教師の捉えを明確に記述する。

##### (2)これまでの学習状況及び児童(生徒)の実態

→ ○道徳的価値に関わるこれまでの指導  
○その結果としての児童生徒のよさと課題  
○だから～を考えさせたい

等を記述する。

##### (3)教材の特質や活用方法について

→ ○教材の簡単なあらすじ  
○教材のどの場面や発言を取り上げて、ねらいにせまっていくのか 等を記述する。

#### 4 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
	・児童生徒目線で記述する。 ・主な発問は、自分が実際に話す言葉で書くとよい。	・発問に正対した児童生徒の反応を予想して記述する。 ・予想した反応に対してどう問い合わせるかもイメージしながら記述する。	・発問の意図、手立ての意図を記述する。 (例)～について考えるために、役割演技をさせる。等

#### 5 他の教育活動との関連

#### 6 評価の視点

→ 評価の2つの視点から、本時における学習状況を見取る視点を記述します。語尾は「～しようとしていた。」「～に気付いていたか。」等

#### 7 板書計画

→ 教師が意図をもって対比的、構造的に示したり、中心部分を浮きだせたりする工夫をすることが大切です。





## ねらいの設定

別資料「よりよい授業づくりのために」を基に、本時の授業で具体的に考えさせたいこと・気付かせたいことを決め、ねらいに示していきます。  
ねらいの示し方は、授業の改善・充実のために大変重要です。

# I ねらいの示し方の基本

【参考 埼玉県小学校教育課程資料・評価資料 p253】

**<A>**を通して、**<B>**に気付き（を理解し）**<C>**を育てる（高める、養う）。

**<A>**…**<B>**を考えさせるために、教材のどこをどう活用し、何を中心に学習させるか。

**<B>**…本時の授業で具体的に考えさせたいこと、気付かせたいことは何か。

**<C>**…道徳性の諸様相からどのような資質・能力を育むのか。



道徳性の諸様相とは、**道徳的判断力**、**道徳的心情**、**道徳的実践意欲**と**態度**のことです。

この時に、重点的に身に付けさせたい**<C>**で示す道徳性の諸様相と**<A>**で示す学習活動との整合性が取れるように留意しましょう。



(例) 小学校中学年教材「新発売のカード」(A正直・誠実)

### ◎道徳的判断力の育成に重点をおいた場合

人は時として過ちを犯すことがあるが、その時どのように対処すればよいかを話し合う活動を通して、過ちを改め、正直に明るい心で生活していくための判断力を育てる（高める）。

### ◎道徳的心情の育成に重点をおいた場合

人は時として過ちを犯すことがあるが、その心の内やその後の行動を考える学習を通して、正直に伝えたときの気持ちのよさに気付き、正直で明るい心で生活しようとする心情を育てる。

### ◎道徳的実践意欲と態度の育成に重点をおいた場合

人間的な弱さから生じる道徳的問題の解決策や、正直という道徳的価値の意義を考える学習を通して、正直とは、過ちは素直に改めることであると理解し、正直に明るい心で元気よく生活していこうとする態度を育てる（養う）。



## 2 具体例

- 親切にされた時の登場人物の心情の変化について考えていくことを通して、親切にすることのよさに気付き、身近な人たちに温かい心で接し、親切にする心情を育てる。（小学校低学年教材「はしのうえのおおかみ」B 思いやり・親切）
- つい悪口を言ってしまったり、嫌なことをしまったりしたときの対処の仕方を考える学習を通して、礼儀とはいつでも真心をもって接することが大切であることを理解し、自分も相手も気持ちよく過ごしていくための判断力を高める。（小学校中学年教材「かなちゃんへの手紙」B 礼儀）
- 周囲に流されて行動する私について多面的・多角的に考える学習を通して、他人の言動に左右されなく自主的に善悪の判断をすることの大切さに気付き、誠実に行動してその結果に責任をもとうとする態度を育てる。（中学校教材「私たちの初詣」A 自主・自律・自由と責任）